

# 校歌・校章





## 校章の由来

従来の校章は歴史的意味を表し、意義深いものであったが、児童たちには理解しがたく、わかりにくいということもあって、昭和38年、校旗新調を機にわかりやすい校章ということで改定したものである。

一般募集作品の中から選び出されたもので、校舎前に植えられていたプラタナスの葉を模し、校歌に歌われている富士山と周囲の山脈を配して、端的に久那土小学校を表すために、久小の字を中心にすえたものである。

# 校歌

作詞 向井 房惠  
作曲 坂口 五郎

一

うち見れば 富士の神山  
そびゆるところ  
山峡の南にありて  
その名ゆかしき  
我が里久那土

二

朝夕に 流れつきせぬ  
三沢の川辺  
さながらに幾世伝えて  
我が学び舎は  
尊くたてり

三

いざ友よ 進む文化に  
知徳をみがき  
心をも身をもきたえて  
その山川と  
御祖に応えん

※ 学校沿革史に一箇所、校歌についての記述がありました。昭和26年の10月22日に校歌一部修正。「みことかしこみ」を「進む文化に」とする。(向井房惠先生)

御中

市瀬学校の沿革は明治七年から同十二年七月までの六年間の記録しか現存していない。

この沿革誌の中で特に目につくのは生徒の昇級試験の記録である。学齢人員の五割程度の就学率の中で、昇級者は更にその五割を割っていることも注目すべきことであろう。

④ 児童数の推移(別表)

1	石井勘吾	明二七・四一三〇・三
2	佐々木久吉	〃三〇・四一三二・三
3	浅川與三郎	〃三二・四一三三・三
4	馬場正臣	〃三三・四一三九・一二
5	稲垣 要	〃三九・二一六二・一
6	黒田重作	大ニ・一六・八
7	小尾義信	〃六・八一三・四
8	依田貴敬	〃一三一四一四六・三
9	望月久三	昭六・四一六・三
10	松田 寛	〃一六・四一八・三
11	渡辺武三	〃一八・四二一・三
12	長沢 誠	〃二一・四二二・三
13	矢崎勝平	〃二二・四二四・三
14	小林久直	〃二四・四二三・六
15	日向 勇	〃三三・六・四〇・三
16	井上 審	〃四〇・四一四二・三
17	深沢幸雄	〃四二・四一四四・三
18	伊藤 要	〃四四・四一五一・三
19	松井美次	〃五一・四一五三・三
20	小林庸男	〃五三・四一現在

②久那土小学校

久那土小学校校歌

一、うち見れば 富士の神山

そびゆるところ

山峡の南にありて

その名ゆかしき わが里久那土

二、朝夕に流れつきせぬ

三沢の川辺

きながらに幾世伝えて

わが学び舎は 尊くたてり

三、いざ友よ 進む文化に

知徳をみがき

心をも身をもきたえて

その山川と御祖に忘えん

作詞 向井 房恵  
作曲 坂口 五郎



久那土小学校

② 沿革

明治六年十二月六日 所属の樋田・車田・切房木・道・水船の五か村にて「車田学校」を創立し、車田村にあった劇場を修繕改良して校舎に充て、本県学務課長綿引泰の臨席を得て開校の式典を挙げる。

〃 十二月二十日 所属の三沢村にて「三沢学校」を創立し、同村朝縁坊を仮教場とし、本県学務課長綿引泰臨席して開校の式典を挙げる。その後同村の劇場を改良修理して校舎に充てる。

明治七年八月八日 車田校所属の内、道、水船の二カ村は生徒通学の便利を図り、分離して芝草と共同して「道学校」を創立し、同村慈観寺を仮教場とし、本県学務課員三谷恒氏臨席して開校式を挙げる。

〃 十月十五日 大磯小磯村に道学校出張所を置く。その後風災のため道学校教場を道村常楽院及び清久寺に移転する。

明治十八年十月十五日 道学校校舎を道村字清水に新築し、開校式を挙げる。明治二十年一月 県令第四号を以て小学校設置区域及び位置を定められ、三沢・岩下・車田・道と各一校毎の名称なりしを合併して、三沢・道の二尋常小学校とし、岩下を三沢学校の分校とし車田を同校の出張所となし、磯を道学校の分校とす。その後磯分校は独立して磯簡易小学校となる。

明治二十二年五月 西八代郡立高等小学校分校教場を三沢尋常小学校内に置き、高等小学校二年までを教授す。

〃 六月 県令第四一号を以て町村制施行に際し所属の岩下を除き、三沢・樋田・車田・切房木・道・水船・芝草の七か村を合同して久那土村と改称される。県令第四九号を以て小学校設置区域及び位置を改正せられ、これまでの二校を合して車田に置き、久那土尋常小学校と称す。しかしながら通学の便をはかり三沢・道に出張所を置く。但し高等分教場は引き続き本校内におく。

明治二十三年十一月一日 久那土尋常小学校へ勅語謄本及び文部大臣訓示が下賜される。

明治二十五年四月 郡達第一六号を以て校歌、位置が改定せられ、三沢・車田・道の三尋常小学校を設置する。従って久那土尋常小学校及び同校内に併置されていた西八代郡立高等小学校分校教場を廃止する。三沢・車田は修業年限を四か年、道は三か年の尋常小学校及び修業年限三か年の

## 第二章 学校教育

補習科を許可される。  
三校合併後の記事

明治三十二年二月九日 郡達第六号をもって校歌・位置を改定せられ、これまで三カ所に有りたる尋常小学校を廃し、更に一カ所の尋常小学校を大字三沢区字大草に設置することになる。

〃 三月二十八日 本県指令乙第一三五号をもって、高等小学校設置並びにその教科を尋常小学校に併置の件許可される。従って校名を「久那土尋常高等小学校」と改称し、四月一日より開校することを決す。

〃 四月二十日 郡達第三〇号をもって道分教場設置の件が許可される。

〃 七月七日 本県指令乙第四七七号をもって、尋常科教科目に唱歌加設の件が許可される。

〃 七月十一日 これまで尋常科は旧三沢校舎に、高等科は旧車田校舎を教場に充用してきたが、旧教舎取壊しに付き新校舎工事中尋常科は車田組「法円寺」を、高等科は三沢組「長松院」を仮用する。

〃 十一月二十三日 新嘗祭の佳き日、本校舎・役場及び橋梁共新築工事は竣工を告げ、県知事代理県視学手塚語重を始め村民来賓多数参列して盛大なる開校式を挙げる。工事は学校、役場、橋梁工事費総額三、七六七円五〇銭であった。

明治三十四年九月二十六日 本県指令第六三七号をもって、尋常科教科目中へ裁縫科加設の件認可される。

明治三十七年四月五日 久那土尋常高等小学校基本財産増殖のため、学校植林事業を企てるために学校苗圃を作り、杉苗六六六本を栽植する。

明治三十九年九月五日 他村より高等科へ入学せる児童の授業料の制限外徴収（一か月四五銭）の件、文部大臣より認可される。

明治四十年十月二十八日 山梨県より農業補習学校設立の件認可される。

〃 十二月九日 農業補習学校開校式挙行  
明治四十一年五月十七日 明治四十一年度より義務教育年限が六か年に延

長したため、増築を決め一月十三日より工を起した増築工事竣工し落成式挙行。「増築校舎は奥行五間、間口一四間ノ木造二階建瓦葺ニシテ、工費一、五〇〇円ヲ要セリ」

明治四十四年四月十七日 山梨県教育会付属小学校教員養成所が本校内に置かれることになり開所式を挙行する。入学生徒は男五〇名、女二〇名、別に聴講生一三名。

〃 五月一日 高等科第三学年を開設し、生徒男九、女一名入學する。

大正三年一月二十七日 高等科第三学年を廃止し、二か年程度の高等補習科設置の件認可される。

〃 四月十二日 生徒用帽章を制定する。(桜花の中に岐の字を配す)

大正四年四月十三日 御大典記念事業として花柄沢に造林地を設け、松苗一、二〇〇本を栽植する。

大正十二年四月十三日 運動場外周柵の工事竣工し、杉苗四五〇本を周囲に栽植する。

大正十三年三月二十七日 本県知事梅谷光貞本村視察の途時、当校の運動場を始め種々視察する。

大正十四年二月二十七日 山梨県師範学校教員佐々木久吉、第一部生徒二三名を引率し本校の授業を參觀。

〃 七月二十二日 本村青年団主催のラジオ公開が本校校庭において開催される。

〃 十一月二十七日 本校学校記念日の式後峡南簡易野球大会を本校の主催により実施。

昭和二年三月十七日 米国世界児童親善会より平和の使者として、人形の寄贈あり、長田校長受領のため甲府市に出張す。

〃 三月二十八日 右返礼として本校児童の自作の礼状一六通を贈写版にて印刷製本し、各一冊宛一八人分を米国ニューヨーク市宛発送する。

〃 八月 夏季休業中約七五〇円を投じガラス障子に改造し、校舎全体に一大修繕を加える。

昭和三年六月四日 第一回ムシ歯予防デー行事実施。

〃 十月五日 少年乃木団組織を変更し部落との関係を密接にする。

昭和四年五月十七日 本校少年乃木団旗樹立式を挙行する。

昭和五年九月十三日 少年消防隊新設

● 昭和八年十一月二十三日 学校創立三五周年記念として、校旗樹立、校歌制定式を挙行する。

昭和十一年七月二十日 新築校舎落成式挙行

昭和十四年九月十一日 「青少年学徒ニ賜リタル勅語」の謄本伝達される。

昭和十六年八月二十二日 遺家族宅へ五日間の勤勞奉仕作業

昭和十七年三月三日 満蒙開拓青少年義勇軍壮行式本校より三名

〃 四月八日 曉天動員実施

昭和十八年一月十八日 戦時金屬類供出の令により本校道德教育の象徴であつた「二宮金次郎」の銅像供出

〃 二月十一日 二宮尊徳石像の除幕式

〃 五月十八日 本校初のツベルクリン注射を全児童に施行

〃 九月二十一日 校内滑空大会実施

〃 十二月七日 初のBCG注射接種

昭和十九年三月十日 児童の拾い集めたどんぐり一四俵を発送

昭和二十年一月八日 久那土少年団経営優良につき大日本青少年団本部、翼賛会戦時貯蓄課長・県係官等の視察を受ける。

〃 五月一日 各学年を中隊組織に編成替えし、学級に小隊の命名をなす。母親学級を開催し竹槍訓練をなす。

〃 五月二十二日 少年機動報國隊を結成する。

〃 十月五日〜九日 豪雨のため校庭大決壊し職員児童防水工事に従事する。

昭和二十一年七月一日 山梨県教育委員会より本校は民主教育実験学校として依頼され、教育方法の革新を行う。

九月十四日 公開授業を行う。アメリカ占領軍軍政部よりブライバンデー大尉外一名の軍政官来校、教育状況を視察し好評を博する。民主教育につき同大尉の講演あり。

十二月九日—二十三日 山梨師範学校生七名教育実習生として勤務

昭和二十二年七月一日 久那土小中学校PTA発足

昭和二十三年三月 教室増築工事竣工使用開始

六月十六日 学校給食指定校に実施され、占領軍放出の脱脂粉乳によるミルク給食実施。

昭和二十五年五月三日 道分校改築落成式挙行

十月二十二日 校歌の一部歌詞修正。「みことかしこみ」を「進む文化に」とする。修正者は原作詞者の向井房恵。

昭和二十九年二月二十三日 元宮家東久邇宮様来校し、子どもクラブ表彰をなす。

十一月一日 公民館兼屋内体育館落成式挙行

昭和三十年四月一日 山保小学校三保分校は町村合併により本校に所属となる。

十月四日 全国へき地教育研究大会三保会場の指定を受け、算数科の公開授業をなす。

十一月二十一日 総合カリキュラムの研究公開実施、西八、南巨より六十余名参観。

昭和三十一年五月十一日 「久那土小中学校PTA解散総会」を挙行。

十一月一日 新「下部町」発足により、本校は下部町立久那土小学校となる。

昭和三十七年二月一日 三保、道、上田原の三分校を含む全校児童への完

## 第二章 学校教育

### 全給食実施

昭和三十八年二月五日 新「校章」制定

三月十六日 新校章制定に伴い、新「校旗」樹立式挙行

三月二十八日 道分校児童は新年度より本校へ試験登校することに決定する。通学代金は全額町負担とする。

昭和四十一年四月二十日 県教育委員会指定学校給食研究校となる。

五月十五日 県教育委員会指定体育科研究校となる。

昭和四十二年二月二十二日 体育科公開授業実施

三月二十一日 上田原分校閉校式。統合までには分校父母と学校側とで何回かの懇談会をもち、やがて大石トンネル開通三月下旬、山交バス運行は遅くとも六月頃までには可能という見通しが立ち四月からの統合を決定する。その間区代表、PTA代表等による町教委、山交バス会社へのバス乗り入れ促進についての陳情は数回に及んだ。

十一月十九日 三保分校へき地教育連盟主催による公開研究会実施。

昭和四十四年四月一日 三保分校一級地指定。同校は従来人事上のへき地（特別地）として認められていたが、へき地教育振興法により、本校との距離、児童の通学距離、水道施設等々の状況から一級地指定条件を充

分具備するものと判定された。

十一月一日 日宿直廃止、学校無人化開始

昭和四十五年四月一日 三保分校独立し、三保小学校として発足する。

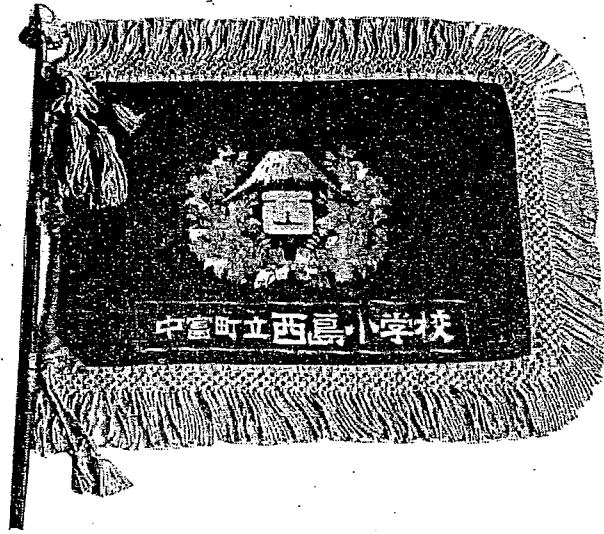
昭和四十七年七月四日 算数、理科公開研究会（自主公開）

七月 夏季休業について、町の学校管理規則の一部が改正され、本年度より七月二十一日より八月三十一日までと改められる。

昭和四十九年九月十五日 「敬老の日」を記念して「祖父母学級」を開催し好評を得る。

十二月三日 日本体育大学松田助教授、オリンピック体操金メダリスト塚原光男他、峡南高校屋体にて体操模範演技会開催（本校主





校旗と校歌

西島小学校校歌

佐野 聡彦 作詩  
入倉 栄 作曲

はつとつと ♩=112 *mf*

や ま むらさきに みずあ おー き

ながれのー きしーに ひははー え て

*mp*

れきしはふるく ゆめわかき ぼーんかはなさく まなびやに つど

う わ れ ら に さ ち ぞ あ れ

.....この旗のもと 高らかにこの歌  
心一つに力あわせて われら.....

西島小学校校歌

- 一、山紫に水蒼き  
流れの岸に陽は映えて  
歴史は古く夢若き  
文化花咲く学園に  
集うわれらに幸ぞあれ
- 二、朝に仰ぐ霊峰の  
浄く崇高を心とし  
自学自修の校風に  
胸ふくらませ勇み立つ  
学ぶ母校に誉あれ
- 三、遠き祖先の昔より  
和紙の産地と謳歌われて  
恵み豊かな西島の  
明日の繁栄を肩にして  
学ぶわれらに力あれ
- 四、高らかに鳴る黎明の鐘  
大空高く光飛び  
世界の海へ雲流る  
われらの意気は天を衝く  
集う母校に希望あれ

## 校歌について

昭和38年 校歌が制定された。

作詞 佐野聡彦 作曲 入倉栄

また、この時に校旗が新たに作られた。校歌の上の校旗がこれに当たる。

平成23年に 静川小との統合に向けての話し合いの中で、1・2・3・4番のうち、3番の歌詞の中に、「和紙の産地」や「恵み豊かな西島の」などの言葉が入っているので、

3番を削除して、4番を3番として、今の西島小の校歌としている。

## 校章について

詳しく分かりません。

静川との統合の際には、変更はしていません。

富士山 「西」 桜の花 葉 リボン



プール竣工式

昭和三八年 校長第二三代星野一俊(昭和三八年四月―同四一年三月)

教頭

一宮信夫(昭和三八年四月―同四二年三月)

校歌が制定された。作詞佐野聡彦・作曲入倉栄両氏による。  
また校旗が新たに作られた。  
鼓笛隊が編成された。

昭和三九年

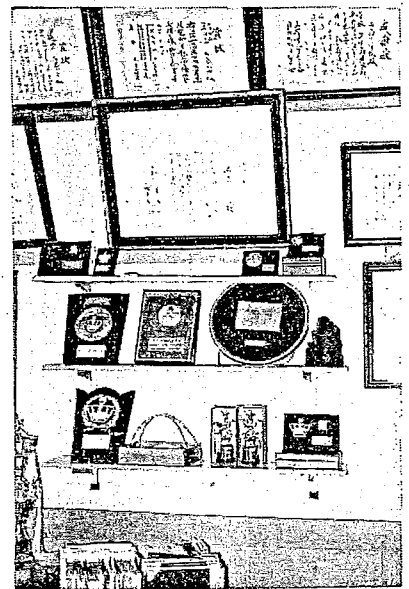
山梨県教育委員会より、交通安全研究校の指定を受け、また中  
富町教育委員会より、安全教育実験学校の指定を受け、その研究  
を進めた。

一〇月二二日、交通安全自治班優秀にて、鯉沢警察署より表彰  
を受けた。

一二月二二日、県及び町の実験学校として、安全教育の研究公  
開を行ない、参加者多数で非常に盛会であつた。

甲南学区の学校給食が開始された。週五日実施する。

山梨大学主催書道展において、昭和三七年より三年連続団体優



勝の榮譽をになつた。

表彰に輝く賞状・賞牌

楽しい学校給食



昭和四〇年

校内泳力テストの実施。泳力の標準を七段階に設け、水泳シ  
ズン中の成果を、全児童についてテストして、泳力の向上、体力  
の増強をはかる。

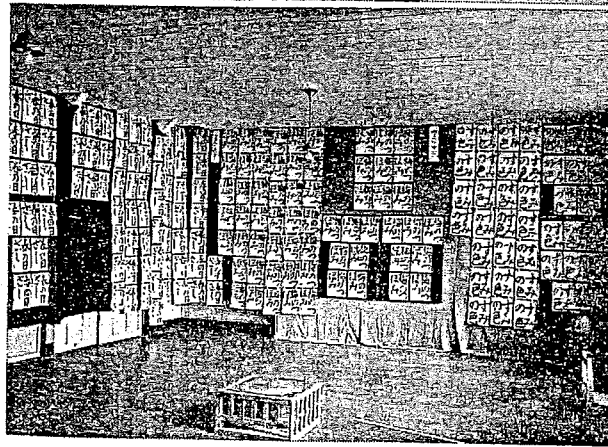
P.T.Aの奉仕による廃品回収を実施し、その収益金をもつて、  
アコーデオンその他楽器を整備した。

梨大書道展に、最優秀校として表彰された。

放送教育公開研究公開を実施し、「道徳時間に生活指導番組をどのように利用したらよいか」をテーマとして発表した。



昭和34年7号台風災害



蔡倫書道展

昭和三五年 校長第二二代河西義雄(昭和三五年四月—同三八年四月)  
この年より、蔡倫書道展覧会が初めて開催され、爾後年を追って盛大となり内容が充実して行つた。

昭和三六年

郡球技大会に、支会代表として出場し、男子ソフトボールの部女子バレーボールの部にそれぞれ優勝した。郡球技大会においてはその後においても、昭和三九年度にソフト、バレー両部の優勝

昭和四一年度ソフト準優勝、バレー優勝、四二年度ソフト準優勝バレー優勝と、ほとんど連年優勝もしくは準優勝と見事な成績を發揮した。

九月三日、プール敷地を決定。地鎮祭を行ない工事を起こした。

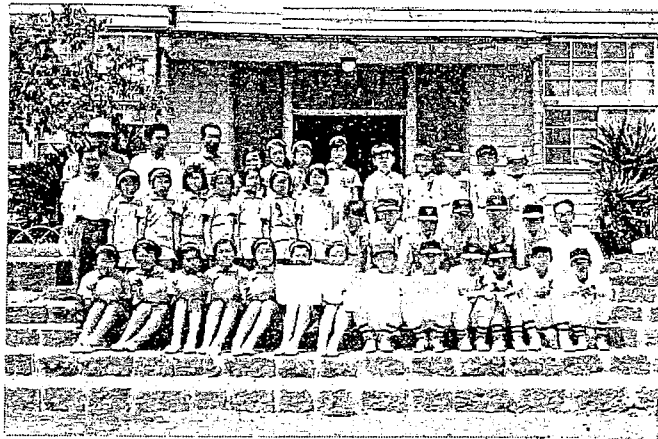
昭和三七年

山梨大学主催の県下席書大会に参加し、優秀な成績をあげ、最優秀校に選ばれた。

市川高等学校主催書道展に学校賞を受けた。

前年に工を起したプール工事は、工が進んで、七月八日完成して、プール竣工式・プール開き及び祝賀会を催した。

プール建設は、地区の多年の熱望であつて、昭和三五年より、PTAの建設促進運動がつづけられて来たが、ここに機が熟し、区をあげて建設委員会が組織され、土地寄付者始め地区民の協力により町内における第一号プールとして完成した。プールは、児童の泳力を高め、健康を増進するに大いに役立つているが、その後のプールの整備、安全指導にはPTA始め地域の人々の並々ならぬ努力が払われている。



郡球技大会優勝

## 第二章 学校教育

### 第四節 小・中学校教育

#### 一、西島小学校 (明治の沿革誌不詳)

##### 1 沿革

創立当初の西島小学校は、明治新政府から学制が頒布された翌年の明治六年二月二三日開校され、第十六学区第四十四番中学区第四十九番西島学校と称した。もと水戸藩の浪士川上波が明治五年当地に迎えられ、子弟に読み書きなどを教えていたのが、訓導試補に任ぜられ西島学校創立にあたり初代の経営者となった。

明治 七年度 校舎を円明寺に移転

〃 二〇〃 西島小学校と改称

〃 三三〃 高等科併設、四学級

〃 三四〃 ほぼ現在地に新校舎を建築 西島尋常高等高等小学校と改称

〃 三七〃 農業補習学校を併設

〃 三九〃 六学級編成

〃 四二〃 四一年から尋常科が義務教育として六か年に延長

一二月校舎を増築

〃 四四〃 七月七学級編成

大正一〇年度 職員八名、尋常科三二六名高等科八四名で八学級編成、理科機械の設備を新設して実験を主軸とする理科教育を振興

して内外に大きな反響を呼んだ。

〃 一二〃 尋常科一・二年に自然科ならびに図画科を新設して、科学および芸術教育を高唱。一月二日学校劇を上演し、図画展覧会を開催し、芸術と教育学校劇の教育的意義について研究発表をして新教育思潮の実践に努めた。

〃 一五〃 七月二七日校舎増築起工式。九月一日上棟式。東面した南北の校舎のうち北三分の二は中央玄関の上に一教室の二階のあった校舎を増設して総二階の校舎とした。校舎裏に井戸があり炊事室と一教室があり、北西に西島役場が近接していた。

昭和 二〃 高等科が二学級編成

〃 三〃 第一回部落(八部落)対抗陸上競技会を開催

〃 四〃 赤十字少年団創立、毎月村内の墓地・神社・仏閣・道路・溝堀の清掃を実施。少年団の日曜活動活発化

〃 五〃 前々から研究していた教授法の研究のうち、読方科と算数の研究を郡下に公開発表

〃 六〃 引き続き「労作主義の教育と読方科教育」について公開研究会を開催

〃 七〃 山野横断競技を実施。創立六十周年記念事業としてピアノを初めて備えた。

〃 八〃 「私達の誓」の道徳法典を制定して訓育に資した。

少年消防隊を結成。県主催の書道展に初出品

〃 九〃 校旗樹立式。校歌制定。富士川堤防外の河原に農業実習地を二反歩開墾

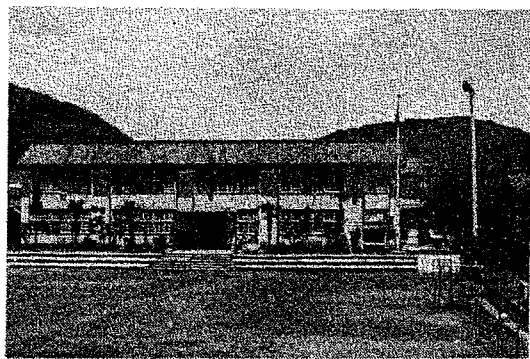
〃 一〇〃 農繁休業を初めて一週間実施、台風のため校庭二尺

第五編 教育と文化

浸水、開墾地が荒された。

- 〃 一一〃 県の合同視察を受けた。その後「本校の修身教育」の研究記録と授業公開発表会を開催
  - 〃 一五〃 河原開墾約五反歩。食糧増産運動に参加
  - 〃 一八〃 学校林植樹。学校田経営。模型飛行機大会実施
  - 〃 一九〃 体操および団体訓練公開発表
  - 〃 二〇〃 生徒援農運動参加。平和音楽会開催
  - 〃 二一〃 自治会の実践公開研究会開催
  - 〃 二二〃 新教育課程の研究「社会科」の初公開発表開催
  - 〃 二三〃 郡教育会指定の社会科公開研究会開催
  - 〃 二五〃 県教委指定実験学校として県下に「本校教育計画第二集」をもって公開研究会を開催し盛会であった。
  - 〃 二七〃 新校舎地鎮祭ならびに起工式（二二・一四）旧校舎解体のため作業場（公民館）へ移転。新校舎落成式ならびに記念大展覽会（一一・三）、校内放送設備完了放送教育開始
  - 〃 三二〃 西島簡易水道敷設に伴ない学校水道の完成。学校放送聴取を中心として郡下の学校に授業研究を公開
  - 〃 三三〃 体育器具置場の建築
  - 〃 三四〃 台風のため校庭に約一畝の浸水（八・一四）
  - 〃 三六〃 プール工事地鎮祭（九・二）完成翌年七月八日
  - 〃 三八〃 校旗更新・校歌制定・鼓笛隊編成
  - 〃 三九〃 県教委・町教委指定による安全教育実験学校
  - 〃 四一〃 グランドピアノ施設。梨大書道展五年連続最優秀賞
- P T A 文部大臣表彰記念式参加（一、一六）

- 〃 四二〃 屋外照明灯施設。校庭に消火栓施設
  - 〃 四三〃 プール脱衣場設置。全校全面塗装工事実施
- 2 西島小学校 P T A
- 昭和三三年度 西島小中 P T A 連合会設立
  - 〃 二四〃 学校給食に母親交代で奉仕。新教育学習会の運営
  - 〃 二五〃 施設の充実。県実験学校社会科公開の学習と協力
  - 〃 二六〃 体育公開研究会に協力。遠足・学芸会に協力
  - 〃 二七〃 P T A スクール。旧校舎解体作業奉仕
  - 〃 二八〃 新校舎
- 環境整備協力 P T A 運営について郡下に公開
- 〃 二九〃 図書の充実。中庭の池完成
  - 〃 三〇〃 P T A 研究の県教委指定公開研究会開催
  - 〃 三一〃 学年 P T A 毎月一回実施
  - 〃 三二〃 県 P T A 協議会長より表彰。
  - ラジオ全学級へ施設
  - 〃 三三〃 カート
  - ン全学級へ施設。N H K 放送教育公開協力



西 島 小 学 校